

## 第2回福祉厚生部会記録

- ◆日 時：令和6年1月29日（月） 14時00分～15時15分
- ◆場 所：京丹波町役場大会議室
- ◆出席者：奥戸久美子委員、津田勝二委員、山本麻里委員、湊由利江委員  
（久木課長、岡本課長、堀課長）

### 部会長・副部会長の選任について

部会長：湊由利江委員

副部会長：津田勝二委員

### 創生戦略事業評価について

・委員：竹野地区は、移住に力を入れており、竹野小学校の存続に一生懸命されており、お手伝いをしているが、生徒が25人をきる可能性が4月以降でくるため、なんとか25人をきらないよう頑張っているが、出来る出来ない別として案として言いたい。移住というのは住むところを変えることで、そう簡単にならないが、竹野小学校は生徒数27人一学年4人程度、そのような規模感を強みと捉えている。そういう学校に留学してもらうことができないかと思った。子どもさんを預かるということは物凄く大切なことですから、難しさもわかる。

・事務局：山村留学していたが、今年にはやめた、子どもを世話する方も大変になった。何十年も続いてきた。

・事務局：都内から北海道へ、家族で移住することもある。中山間地にこども園に余裕があるため、町が受け入れる宿泊施設も用意する必要がある。

・委員：家族で来るとなると仕事がないと困る。

・事務局：インターネットを利用した仕事の家族が多い。場合によっては、その期間だけは斡旋ということもあるかもしれない。

・委員：町としては丹波ひかり小学校と竹野小学校を統合したいという気持ちはあるのか。

・事務局：行政で考えること、地域で考えることあるが、小学校は地域であるため、そこに寄り添うのが行政だと思う。行政の勝手な効率的な考えで行うものではないと思う。

・委員：議会で統合について意見はでているのか。

・事務局：議会から教育委員会の方には現状の考え方を聞いてきた経過はある。

・委員：学校が無くなるのは地域として凄く損失であると思う。学校を統合すると先生などの関係人口が減り、保護者も行事があれば参加し、卒業式は地元の方も参加していた。学校の代わりに振興会も頑張ってきたが、地域自体が錆びれてきてしまう。高校が無くなることも地域に損失であり、もう帰ってくる機会がなくなってしまう。私は竹野のしていることを応援していきたい。

・委員：子どもの登下校時に挨拶をさせていきたいと考え、PTAの役員による挨拶の声掛け運動をバス停や家の前で実施している。

・委員：スマートフォンアプリケーションの利用促進について、高齢者はおいてかれる傾向にあり、

その辺が難しいと感じる。ウェルネス京丹波アプリを女性の会でインストールしたが、役場の職員に協力していただいたが、20名の会員にインストールするのに1時間が使ってしまった。

・委員：40～50代の世代の方が運動する習慣を作れるように考えられたアプリとなるが、高齢者世代の利用が難しい方の上手に利用する方法があればいいですが。

・事務局：企画情報課のスマートフォン教室を開催しているが、参加者も多く、参加後の感想もよいですが、来ていただくまでには時間が掛かる傾向にある。

・委員：福祉関係の仕事は人気はないが、資格取得など費用は発生するため、支援制度をお願いしたい。例えば、初任者研修10万円程度掛かるが、近隣市町では補助金があるなど差がある。

・委員：町内でも古民家改装し一棟貸ししているところが結構でてきている。

・事務局：空き家バンクを経由したケースは把握している。

・委員：京都市内から観光も期待している。知り合いは、30日連続で外国人が泊まりにきていた。何にもなさは魅力になると思う。

・事務局：私ども考えている見え方とは違う。

・委員：魅力の掘り起こしを進め、観光ツアーなどに組み込んでいくとよいと思う。